

2025 年 6 月 19 日
日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で
～新潟にて海事施設の見学会を開催～

日本船主協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し商船やコンテナターミナル等海事施設の見学会や出前授業等を実施しております。

今般、北陸信越海事広報協会とともに、新潟国際貿易ターミナルの協力を得て、6 月 11 日（水）に新潟市立南浜中学校 2 年生と教員の約 30 名を対象にコンテナターミナルの見学会を開催しましたのでその模様をお知らせします。

【見学会概要】

はじめに、当協会から、日本の貿易量の 99%以上を海運が担っていること、そして海上輸送で運ばれる貨物を受け入れる港湾が私たちの生活に密接に関わり重要な役割を果たしていることを説明しました。さらに、新潟国際貿易ターミナルのようなコンテナ港に入港するコンテナ船についても解説し、海運や港湾をはじめとする海事産業で働く多くの人々が私たちの日常生活を支えていることを紹介しました。



講義の様子

その後、参加者はターミナル社屋屋上からコンテナターミナルを見学しました。コンテナ船の荷役の様子を見ることができたほか、多くのコンテナが蔵置されている様子や、ストラドルキャリアがコンテナを運搬する様子を見学し、生徒は普段見ることのない景色を楽しんでいる様子でした。



屋上見学の様子



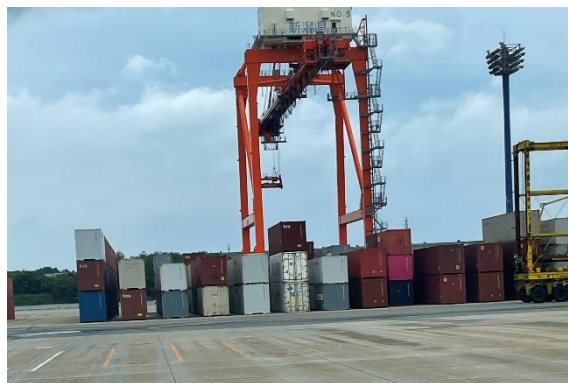
コンテナターミナルの様子。黄色の重機は、コンテナを運ぶストラドルキャリア。

屋上から見学した後はバスに乗車し、コンテナターミナル内を車内から見学しました。バス車内では、新潟港は国内のコンテナターミナル港の中では 12 番目の貨物量を取り扱っていることや、ガントリークレーンでの荷役方法、ストラドルキャリアでのコンテナ運搬について、ターミナル担当者から説明がありました。

コンテナヤードに整然と並ぶコンテナの間には、ストラドルキャリアが通行して運搬作業を行えるよう、約 70cm の隙間が確保されており、その様子を間近で見ることができました。



バス車内で解説をするターミナル担当者



ストラドルキャリアが間に入って作業できるよう、隙間を空けて並べられたコンテナ

見学中には、生徒から「原油タンカーは何トンの原油を一度に運ぶことができるのか」「ガントリークレーン 1 基の値段はいくらか」「(屋上から見える) 荷役作業中の船はどこへ行くのか」といった質問が挙がり、海事産業に関心を持ってくれた様子でした。

当協会は引き続き、日々の暮らしを支える海運をはじめとする海事産業がより教育に取り入れられるよう、各種活動に取り組んでまいります。

以上